GOD WITH US

Part 10: EARLY LETTERS

Message 25 – Colossians

Living like a Citizen of Heaven

Colossians 3,4

December 13, 2020

神はわれらと共に

パート１０：初期の手紙

第２５メッセージ - コロサイ人への手紙

天国の市民らしく生きる

コロサイ人への手紙第３，４章

はじめに

コロサイ人への手紙第 1、2 章は、主にキリストの至上権に関する教義上の問題に焦点を当てています。 第３、４章は、キリストとのつながりの内に、どのように生きることが可能で、生きるべきかに関する、私たちの「任務」の問題に焦点を当てています。 エペソ人への手紙第 4-6 章によく似た内容ですが、コロサイ人への手紙独特の強調点があります。 この部分の「主題となる聖書箇所」は、教義から任務へと移行させる次の箇所です：**3:1 このように、あなたがたはキリストと共によみがえらされたのだから、上にあるものを求めなさい。そこではキリストが神の右に座しておられるのである。 3:2 あなたがたは上にあるものを思うべきであって、地上のものに心を引かれてはならない。（コロサイ人３：１，２）**

エペソ人への手紙では「召にふさわしく歩みなさい」という信者の責任を強調しましたが（4：1）、コロサイ人への手紙では「キリストにおける、あなたの真の立場に照らされて生るように」（3：1,2）と呼びかけています。さらに、エペソ人への手紙では、神が与えてくださった多くの祝福に応えるようにと呼びかけ、コロサイ人の手紙では、復活と栄光の主となられた結果、私たちに与えられた新しい立場に対応するようにと呼びかけます。

キリストと共によみがえった：3：1-4

第 2 章でパウロは、信者はキリストの死（20 節）によって、キリストと共に死に、バプテスマ（12 節）を通して、キリストと共に葬られ、キリストの復活（13 節）を通して、キリストと共に復活したと記しています。エペソ人への手紙の中では、信者はキリストの内に生かされただけでなく（5 節）、「キリストの」天の領域において、キリストと共に、座したと付け加えています（6 節）。コロサイ人への手紙の独特の強調は、キリストによる私たちの天国における立場は、この世界における考え方と生き方を変えるべきであるということです。私たちは地上の考え方や生き方に「引き戻される」ことを許すべきではありません。

3:1 このように、あなたがたはキリストと共によみがえらされたのだから、上にあるものを求めなさい。そこではキリストが神の右に座しておられるのである。 3:2 あなたがたは上にあるものを思うべきであって、地上のものに心を引かれてはならない。 3:3 あなたがたはすでに死んだものであって、あなたがたのいのちは、キリストと共に神のうちに隠されているのである。 3:4 わたしたちのいのちなるキリストが現れる時には、あなたがたも、キリストと共に栄光のうちに現れるであろう。（コロサイ人３：１－４）

夢のような少女と婚約したばかりの青年を想像してみましょう。彼は別の町に出張中ですが、その友人たちは彼の「高揚感」に気づかずいられません。友人たちが言います：「あなたは物理的に私たちとここいるけれど、頭はまるでどこか別のところにある様だ！」青年は答えます：「全く、その通りです。私の頭は別のところにあります。体はあなたたちとここにいますが、心と思いは、私の婚約者と共にいます。」キリスト者として、私たちの心はキリストと共にあります。キリストと「婚約」しています。キリストは、私たちの「最愛の人」です。ですから、私たちがこの世に住んでいる間、心と思いは常にキリストのことを思い、追い求めているべきです。御言葉を読んだり、聞いたり、勉強したりする時間、心を静めて心の中でキリストの御霊に聞く時間、祈りの中でキリストとコミュニケーションをとる時間、キリストを追い求めているキリストの民との時間を過ごすことによって、私たちは、キリストのことを思い、追い求めることができます。私たちの考え方が歩み方を決定します。ですから、イエス・キリストに、心と思いを尽くして生きましょう。

古い人を脱ぎ捨てて、新しい人を着る：3：5-15

パウロは「あなたがキリストと共に死んだ」（2:20）ので、「それ以来、あなたはキリストと共に挙げられた」（3：1）と結びつけています。これらは、キリストにある私たちの立場について言及しています。それからパウロは、「脱ぎ捨てる」とか、「殺してしまいなさい…」（3：5）など、私たちの実践的教えへと移ります。キリスト教は、「キリストにあって」、「キリストを通して」（位置的真理）すでに成し遂げられた部分と、キリストの御霊と御言（実践的真理）を日々の歩みの中で、私たちの新しい立場を保有するという生涯にわたる歩みの現実との組み合わせです。

ここにはエペソ人への手紙第 4 章 17-5：6 節によく似たフレーズが含まれています。パウロは「脱ぐ、着る」という表現を用いて、新旧の生き方を説明しています。ここには、エペソ人への手紙と比較して、信者の成長過程（聖化）を理解するのに役立つ詳細が含まれています。コロサイ人とエペソ人からの次の二つの聖句を比較してください：

4:22 すなわち、あなたがたは、以前の生活に属する、情欲に迷って滅び行く古き人を脱ぎ捨て、（エペソ４：２２）

3:10 造り主のかたちに従って新しくされ、真の知識に至る新しき人を着たのである。（コロサイ３：１０）

下線の部分は、どちらも現在進行形です。これは進行中の働きを示します。要するに、一人一人の古い自己は絶えず悪化しています。キリスト教は古い性質のリハビリではありません！古い性質に共通する反応のリストを確認しましょう：「不品行、汚れ、情欲、悪欲、貪欲（5 節）、怒り、憤り、悪意、そしり、口から出る恥ずべき言葉、偽り」（8,9 節）。私たちの「新しい性質」は救いの中で生まれ変わり、罪が入る前に（神に対する不従順によって）人間の中で創造された「創造主」である神の「イメージ」に「再生」されています（創世記 1:27））。キリストの内に学び、成長するとき、「知識」において、「新しくされている」のです。

キリストと内在されるキリストの御霊にあって生き、新しく生まれ変わった性質に生きる実践を選択しない場合、悲しいかな、世のシステムや価値観によって「腐敗されている」古い性質、古い考え、古い習慣、古い方法に生き、更に悪化することも可能です。新しくされることは生涯の選択です。

キリストの信者であり従者として成長し、実を結んだ後で、追求をやめてしまったという経験がありますか？その結果、突然キリストを受け入れる前よりも一層悪い方法で考え、話し、行動し始めた経験はありますか？「どうしてこのようなことが起こるのか」と自問します。もうお分かりでしょう。あなたの「古い自己」は静かに「堕落」し続けており、再現を許されたとき、あなたは「創造主のイメージと知識において更新された」ときのあなたとの印象的なコントラストにショックを受けます。 新しくされるという意図的な実践を停止したときに、逆戻りするからです。 これを理解することは不可欠です。 この現実は、あなたにどのような影響を与えますか？ 希望はあります！ 皆、新しくされているという進行形の状態に戻ることは可能です。

このように、私たちは意図的に新しい性質に生きることが不可欠です。そうするとき、一人一人の中のその新しい自己は、ますますイエスの様のイメージへと更新されていきます。聖化（霊的成長）は、物理的な成熟過程と同じように、段階的に移動するプロセスであることが明らかになります。そのプロセスは、私たちの内におられる御霊の働きです。しかし、それはまた、それぞれの日々の積極的な協力を要します。最も重要なことは、コロサイ人への手紙とエペソ人への手紙の両方が、神の御言の真理に焦点を当てて、私たちの心を用いる

ことの重要性を強調していることです。これは次の教えに強く関連します。

みことばをあなたの内に豊かに住まわせなさい：3：16,17

ここは、コロサイ人への手紙のもう一つの重要かつ、特異な箇所です。エペソ人への手紙と比較することによって、非常に重要な教訓が得られる箇所です。エペソ人への手紙第 5 章 18-20 節で、パウロは御霊に満たされるようにと強調しました。コロサイ人への手紙の中では、御言で満たされるようにと強調しています。両方の聖句の結果は、ほぼ同じですが、結果に到達する経過は、それぞれの聖句でわずかに異なります。

3:16 キリストの言葉を、あなたがたのうちに豊かに宿らせなさい。そして、知恵をつくして互に教えまた訓戒し、詩とさんびと霊の歌とによって、感謝して心から神をほめたたえなさい。 3:17 そして、あなたのすることはすべて、言葉によるとわざによるとを問わず、いっさい主イエスの名によってなし、彼によって父なる神に感謝しなさい。
（コロサイ人３：１６，１７）

これらの二つの平行した聖句から何を学ぶことができるでしょうか？ 単純に、また最も重要な教訓は、御言に満ちた人生と御霊に満ちた人生は切り離すことはできず、両方とも保持する必要があります。 エペソ人への手紙第 5 章は、御霊の支配的な影響力に毎日心を委ねるようにと教えています。 これは三位一体の 3 番目のお方に委ねるということです。 同時に、コロサイ人への手紙第 3 章は、私たちの心を神の御言で満たすようにと教えています。 これは神の御言の支配的な影響力に心を委ねるということです。 これらの 2 つの教えを組み合わせると、聖化がどのように機能するかをより明確に把握できます。 一言で言えば、神の御霊は神の御言を用いて神の子を育てられるということです。

神学校の学生であった頃、ある日、図書館に座っていました。 私の向かいにも学生が座っていました。 聖書の横に、マーカーをもって大きな文字で祈りと記しました。これは、神の御言を開くたびに、神の御霊に啓発され、変容されるために神の御言を用いてくださることを祈る必要があることを思い出させるためでした。 聖書は単なる「古い本」ではないことを自身に思い出させました。 私たちも、同じ神聖な態度で、神の御言と交わる必要があります。 私たちは単なる「本」を開けているのではありません。 人生を変える、御霊に触発された、力強い神の御言を開いています。 ヘブル人への手紙は次のように述べています： **4:12 というのは、神の言は生きていて、力があり、もろ刃のつるぎよりも鋭くて、精**

神と霊魂と、関節と骨髄とを切り離すまでに刺しとおして、心の思いと志とを見分けることができる。（ヘブル人４：１２）

このように、聖化と霊感の教義は結びついています。 神の御霊は（人間の預言者と使徒たちを通す神の霊感を通して）神の御言を生み出しました。 ですから、内に住んでおられる同じ神の御霊が私たちの心を形作り、導き、生活を変えるために（神の霊感を受けた）御言を用いたいと望まれることは完全に理にかなっています。

神の家族の内の人間関係：3：18-4：1

この箇所は、エペソ人への手紙第 5 章 22 節から第 6 章 9 節の短縮版です。 エペソ人への手紙の中で、夫婦関係、親子関係、主人と奴隷関係について、さらに詳しく述べています。しかし、コロサイ人への手紙には、注意深く研究するに相応しい重要な独自性があります。 パウロは、主従関係を扱う際に、神が私たちの人生で割り当てられる関係や役割の中にも、より広く適用できると言います。

ここから同じ関係に関する命令についての教えに入ります。 **3:17 そして、あなたのすることはすべて、言葉によるとわざによるとを問わず、いっさい主イエスの名によってなし、彼によって父なる神に感謝しなさい。**
（コロサイ人３：１７）

「神の家族関係」の部分の終わり近くで、パウロは、**『何をするにも』**というフレーズを繰り返します。

3:23 何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から働きなさい。 3:24 あなたがたが知っているとおり、あなたがたは御国をつぐことを、報いとして主から受けるであろう。あなたがたは、主キリストに仕えているのである。 3:25 不正を行う者は、自分の行った不正に対して報いを受けるであろう。それには差別扱いはない。
（コロサイ人３：２３－２５）

備考：奴隷と主人の関係に関する指示を与えることによって、決して聖書は奴隷制を「支持」しているのではありません。聖書には、神が私たちの利益のために「意図」または「誘導」されなかった、私たちの人生が統治する領域に足を踏み入れられている例がたくさんあります（例えば、離婚に関する規則、捕虜の扱いに関する法律など）。第一コリント第 7 章 で、パウロは奴隷に、もし、自由の身になれるなら、それが最良の選択肢であると告げています（7:21）。 しかし、これが選択肢ではない場合のために、手に負えない主人による虐待から保護するための指示を与えます。

ここでもパウロは、文脈の中で、特にしもべ（奴隷）に語りかけましたが、これらの特定の言葉をローマ社会の最下層階

級に記していることから、何をするにしても私たちの生活に重要な原則をくみ取ることができます。

主の観点から、重要であるのは主から私たちに割り当てられた任務です。この世界のシステムにおける私たちの「地位」ではありません。ローレンス兄弟は、カルメル会修道会の修道士であり、修道院の厨房で料理長を務めていました。まるで主のためにそれをしているかのように料理人としての仕事をこなすことを学びました。その著作『The Practice of the Presence of the Lord／主の臨在の実践」は、祈りの古典となっています。パウロの教えとローレンス兄弟の模範は、一見最低の地位を占めるようなところにあっても、「人のためではなく主のために」働くことができると教えています。つまり、私たちの働きに、取るに足らない働きも、重要でない働きも存在しないことを意味します。重要なのは、私たちがどのように仕事をし、誰のために働いているかです。肝心なのは、「**何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から働く**」ことです。 あなたの毎日の仕事は何ですか？それらをこなすときのあなたの姿勢はいかがでしょうか？日々やるべき任務を遂行するとき、何をするにも、キリストに対して仕える姿勢をもって取り組んでください。

祈りについて：4：2-4

祈りを強調するこの短い部分は、コロサイ人への手紙独特のものです（エペソ人への手紙の最後の章と比較した場合）。

4:2 目をさまして、感謝のうちに祈り、ひたすら祈り続けなさい。 4:3 同時にわたしたちのためにも、神が御言のために門を開いて下さって、わたしたちがキリストの奥義を語れるように（わたしは、実は、そのために獄につながれているのである）、 4:4 また、わたしが語るべきことをはっきりと語れるように、祈ってほしい。（コロサイ人４：２－４）

ここで言う「Devote（献身する）」とは、「忙しくする」、「固執する」、「忙しく従事する」という意味です。 祈りは、私たちの最後の手段ではなく、私たちの最初の手段であるべきです。 また、神は（神の知恵と御心に従って）いつも私たちの誠実な祈りに答えてくださるので、感謝の態度で祈ることを「怠らない」ことが重要です。「感謝する」ことは謝意と信仰の姿勢です。私たちが祈り、望んだとおりの要求に答えられないかもしれませんが、神についての知識を深めれば深めるほど、私たちは心からの祈りを愛してくださる神の御心に委ねることができます。

パウロは、閉じられた扉の後ろに閉じ込められていても、彼らに「扉の開き」のために祈るように求めました。 パウロ

は、神の知恵によって、あらゆる状況において、語るべき言葉を正確に知るよう指示していただくことを望みました。

私たちの行動の多くは、『私たち』の知恵、力、戦略的思考によって推進されています。 祈りの実践に注意がほとんど向けられていません。 偉大な献身的な作家である EM バウンズは、1 世紀前に次のように述べました（そして彼の言葉は今日、かつてないほど適切に当てはまります）：『「今日教会が必要としているのは、より多くの機械やより良い物資ではなく、新しい組織やより多くの新しい方法でもなく、御霊に用いられることができる人です。つまり祈りの人、力強く祈ることができる人です。御霊は方法を通してではなく、人を通して流れます。 機械ではなく人に下ってくださいます。 計画にではなく、人に、つまり、祈りの人に油を注いでくださいます。」あなたの活動と努力のどれだけが祈りの内に浸されていますか？

証言について：4：5,6

パウロは、信者がキリストの証人になることを配慮しただけでなく、 どのように彼らの証言をその友人や隣人に知らせるかについても同様に配慮しました。

4:5 今の時を生かして用い、そとの人に対して賢く行動しなさい。 4:6 いつも、塩で味つけられた、やさしい言葉を使いなさい。そうすれば、ひとりびとりに対してどう答えるべきか、わかるであろう。（コロサイ人４：５，６）

-「部外者」とは、イエス・キリストを信じるようになった人々の共同体の「外」にいる人々です。 イエス様をまだ知らない人との日々の出会いの中で、知恵を働かせる必要があります。 私たちの話し方や振る舞いは、人々が私たちの態度を感じることによって、その扉を開いたり閉じたりすることができます。

-あらゆる機会を最大限に活用する必要があります。 かつて誰かが言いました：偶然の出会いなど存在せず、全ての出会いは神の手配によります。 私たちが誰かと時間を過ごすとき、その人へのイエスの愛と恵みを反映する神の機会と見なすべきです。

-私たちは、出会う人、それぞれが異なる応答を要する可能性があることを理解する必要があります。 信仰を他の人と分かち合うとき、一つの方法がすべての場合に適合するようには機能しません。 霊的な会話をしようとしているそれぞれの異なる人々に適切に対応するための知恵を御霊に求める必要があります。

私たちの信仰について話す機会が与えられたとき、私たちの言葉は恵みに満ちているべきです（親切で、穏やかで、状況に適していて、議論の余地がなく、他の人の意見、質問、反対意見を尊重するなど）。 さらに、「塩気のきいた」言葉を語るように 努めなければなりません。塩には、食べ物をより心地よい味にする作用も含めて、様々な用途があります。 イエス・キリストの愛と恵み、また、イエス・キリストがあなたの人生に与える影響について、他の人に話す機会を含む会話は、彼らにキリストのより心地よい見方を残すはずです。 パウロの忠告は、イエスを未だ知らない人々に対して、あなたが話す方法をどのように変えますか？

あいさつと最後の言葉：4：7-18

他の手紙と同様に、パウロは親しい人々への挨拶のリストでこの手紙を閉じます：

-テキコとオネシモは、コロサイの教会にこの手紙を届け（コロサイ４：７－９）、同じように、エペソ人への手紙、ピレモンへの手紙を届けました。テキコは「主にあって愛する兄弟、忠実な奉仕者、動労のしもべである」と表現されています。パウロが「忠実で親愛なる兄弟」として表現したオネシモは、パウロがキリストに導いた逃亡奴隷（参照：ピレモン 10-16 節）が、その主人であるピレモンに送り返されています。ピレモンへの短い手紙は、この美しい変容の物語への多くの洞察を与えてくれます。

-アリスタルコ（4:10）は、パウロに投獄されました。アリスタルコが登場するときはいつでも、パウロの重要な「右腕」の一人としてであり、パウロのために非難を受け、あらゆる困難な状況においてパウロを守ろうとします（使徒 19:29; 20：4; 27：2; ピレモン 1 ：24）

-マルコ（4:10）がバルナバの若いいとこであった事実は、バルナバが最初の宣教旅行旅で若いヨハネ・マルコが躓いた後も特別な関心を持ち続けた理由を説明付けます（使徒 15：36-39）。当時、ヨハネ・マルコは、パウロにとって、ほとんど役に立たない存在でしたが、今ではパウロや他の多くの人々にとって、大変価値のある同僚へと成長しました。もちろん、初代教会への彼の主な貢献は、「マルコの福音書」の執筆でした（これは、ペテロを指導者として、ローマで行われたペテロの説教のコレクションマルコをマルコが詳細にメモを取ったものであると考えられています）。

-エパフラス（4：12,13）はコロサイ出身でした。パウロは、エパフラスのことも「キリスト・イエスの忠実なしもべ」と呼びました。エパフラスは、指導者として、コロサイに教会を建てるのを手伝った人たちの一人であった可能性がある。彼はパウロに会って励ますためにやってきて、コロサイの教会内で何が起こっていたかを彼に伝えた。彼はコロサイの信者た

ちの霊的成長のために真剣に祈りに取り組みました。ピレモンへの手紙第 23 章によると、エパフラスは、パウロと共に投獄された。

-ルカ（4:14）は、宣教師、作家（「ルカの福音書」と「使徒言行録」を詳細に文書化）、神学者、歴史家だけではなく、ここでルカが医師でもあったことがわかります。ルカが人生と宣教においてあらゆる方法でパウロを助け、その上、ルカはパウロの「主治医」を務めた可能性があります。（パウロは確かに途中で多くの医療処置を必要としました！）

-デマスは、この時点でパウロの仲間でしたが、パウロの処刑が近づいたとき、自身の命を失うことを恐れていたようです。今の世を愛し、身の安全のために、パウロを捨てました（テモテ第二 4:10）。

-ヌンパ（4:15）は、キリストの働きを前進させるために人生における自分の立場を用いた女性のもう 1 人の例です。彼女は自分の家で教会を主催しました。ピレモンが彼の家で教会を主催したと仮定すると（ピレモン 1：2）、どの都市の「教会」も、都市全体で出会った多数の「家庭教会」で構成されていたことがわかってきます。当時、比較的大きな家は、内部の集まりのために 30～50 人を収容することができました。

-コロサイ人への手紙は、この地域の教会の間を行き来することを目的としていました（4:16）。「ラオデキヤ人への手紙」はおそらく失われた手紙でしょう。現在のエペソ人への手紙として知られている手紙であると示唆する人もいますが不確かです。

-アルキポは、「主にあって受けた勤めを注意してよく果たすように」と忠告されています（文字通り、「継続的に成就する。」）（4:17）。彼はピレモンへの手紙第 2 章にも言及されており、コロサイの町のより広い教会に奉仕するためにパウロによって割り当てられた「牧師」であった可能性があります。

-パウロは、最後に自筆で挨拶を送りますと記して手紙を閉じます（4:18）。これは、彼自身の自筆を含めることによって手紙を認証するためでした。彼は、代書屋（文学援助）を用いて、口述したとおりに手紙を書かせました（例：ローマ 16:22）。教会に誤った教えを導入する目的で、パウロの名前の偽造が広まりました（参照：2 テサロニケ 2：2）。

感謝の気持ち：コロサイ人への手紙からの最後の実用的な備考。 キリスト教の規律としての感謝の気持ちについての手紙には多くの重点が置かれています。（参照：1：3,12; 2：7; 3：15、16、17; 4：2）感謝を「規律」と呼ぶことは、神に感謝することは必ずしも容易ではないことを意味します。 私たちは感謝する気分になれないときがあります。しかし、困難な時期にあっても、神の愛への信頼の表れとして神に感謝しなければなりません。 パウロがテサロニケ人への手紙に記したように、

「5:18 すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、神があなたがたに求めておられることである。」（テサロニケ第一 5:18）。 毎日の祈りに感謝祭を取り入れてみてください。 祈りの A-C-T-S の頭字語は、嘆願の前に感謝を置きます（神に私たちの必要を供給するように頼みます）：崇拝–告白–感謝–嘆願。 詩編にあるように、**「92:1 いと高き者よ、主に感謝し、み名をほめたたえるのは、よいことです。」（詩篇 92：1）**。

ディスカッションの質問

1.コロサイ人への手紙の後半のすべての特異な教訓と聖句の中で、あなたにとって最も際立っているものは何ですか？

2.コロサイ人への手紙 3：23-25 は、今あなたがするべき仕事に対するあなたの態度をどのように形作っていますか？

3.コロサイ人への手紙 4：5,6 をもう一度読んでください。 あなたの人生で今、これが関係する機会がありますか？

4.感謝の心を育むことが、なぜそんなに重要な美徳だと思いますか？

5.パウロが手紙の最後に名前で言及している人々の誰かと重ねることができますか。